こんな出来事ありました

約39年間にわたって、皆さんにお送りしてきた広報「おおだて」。そのときどきの、様々な記事が載ってます。それらの中からほんのちょっとだけ拾ってみました。ミニ年表も載せましたので、昔を思い出しながらご覧ください。

県内第二の都市に

昭和二十六年四月一日、大館町と釈迦内村が解体合併して、大館市が誕生しました。人口三万五十六人、世帯数五千三百六十一と、日本で最も小さい市の誕生でした。広報の創刊が同年八月二十日ですから、このことは広報には載っていません。

合併の記事が広報に登場したのは、三十年四月号が最初です。三十年三月一日付で、長木上川沿、下川沿、真中、二井田の五村を、三十一日には十二所町を編入合併。人口五万六千百七人、世帯数九千九百十三で、秋田市、能代市に次いで県内第三の都市となりました。このときの広報は、「人口五万の新大館――春と共に華々しく発足」という見出しで、合併の協定事項や一町五村の紹介をしています。

次に合併の記事が載ったのは、石川市政がスタートした直後の四十二年十二月号です。一ページ目の見出しは、「新しい歴史の創造へ――十二月二十一日花矢町編入による新大館市がスタート」。四ページ組の紙面中、三ページにわたって合併までの歩みなどを報じています。この合併により大館市は、人口七万八千七百五十四人、世帯数一万八千百五十七となり、能代市を抜いて県内第二の都市になりました。

いつの合併でも、住民からの賛成論、反対論がありました。特に、花矢町合併のときの町を二分しての論戦が続いたことを記憶している人は少なくないでしょう。そのころの様子を、当時花矢町議会議員であった湊寅之助さん（神山・七十三歳）に伺ってみました。

湊さん

「四十二年十一月十日の午前一時ころと記憶しています。前日から臨時町議会が開催され、合併について審議していたのですが、反対派議員十一人が退場してしまったので、私を含めた賛成派議員十三人で強行採決に持ち込んだんです。結果は当然、十三対零で可決されました。鉱山隆盛の時代でしたので、〝大館市と合併する必要はない〟というのが反対意見の主だったものですが、私は町の将来を考えると合併は不可決と判断したんです。今でも、あのときの判断は間違っていなかったと確信しています。」

ミニ年表

創刊500号

昭和26年８月～

- 26年４月・大館町、釈迦内村が解体合併して市制施行
- ７月・大水害発生（被害総額約２億円）
- ８月・**広報「おおだて」創刊**
- 28年２月・冬季国体スキー大会開催
- ４月・山田敬蔵選手ボストンマラソンで優勝
- ・片町付近大火（焼失棟数１３７）
- 29年７月・市の記念日（４月１日）及び市章を制定
- 30年１月・市役所を旧庁舎（現秋北ホテル地）から移転
- ３月・長木・上川沿・下川沿・真中・二井田の５村編入合併
- ・末広町に公立大館病院新築
- ・十二所町を編入合併
- 31年５月・御成町１丁目の大火（焼失棟数５０８）
- ８月・東大館駅通りから出火、市制施行後最大の大火（焼失棟数１、３４２）
- 33年３月・国際スキージャンプ大会開催
- 35年３月・上水道工事完成
- 36年10月・第16回国体テニス、バレー、バスケット種目開催
- 37年３月・交通安全都市を宣言
- 38年６月・市民体育館完成
- 40年９月・日鉱釈迦内鉱業所操業開始
- 41年２月・公立大館病院解散、市立総合病院設立
- ・10月・同和花岡松峰鉱業操業開始
- 42年10月・市の木が「秋田杉」に決定
- ・12月・花矢町を編入合併
- 43年８月・鳳凰山大文字焼きを実施
- ・10月・御成町２丁目大火（焼失棟数２６３）
- ・12月・市立病院・中道間に22メートル道路開通
- 46年８月・公設卸売市場完成
- 47年３月・上水道事業第１期拡張工事完成

36年国体バレーボール競技（会場・鳳鳴高校）